

核戦争防止

兵庫医師の声

第 118 号 2025 年 7 月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5 F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

市民公開企画 被爆 80 年 被爆体験と継承の取り組み

被爆体験の継承は私たちの役割

核戦争を防止する兵庫県医師の会は 5 月 17 日に市民公開講演会を開催。「被爆 80 年 被爆体験と継承の取り組み」をテーマに広島原爆の語り部の近藤紘子さん、兵庫県被爆二世の会会長の中村典子さんが講演し、市民ら 66 人(うち Zoom16 人)が参加した。

近藤さんは生後 8 カ月で被爆。牧師である父・谷本清さんは自身も被爆しながら救護活動に尽力していたと紹介。10 歳のころ、被爆体験の講演でアメリカを周遊していた谷本さんと共にテレビ番組に出演、広島に原爆を投下したエノラ・ゲイの副操縦士だったロバート・ルイス氏と対面することとなった。原爆により多くの犠牲者や孤児が生み出されたことから、近藤さんは「原爆を落としたやつをこらしめ仇を取る」と幼少期から心に決めていた。しかしルイス氏が「私はなんということをしたのか」と涙をこぼす姿を見て、相手も同じ人間であり、「私が憎むべきは戦争を起こす人たちだ」と気が付いたと語った。そして、次の時代を担う子どもたちには戦争のない平和な世界で生きてほしいこと、日本が先頭に立って核のない世界に変えなければならないと語った。

広島でレントゲン技師をしていた中村さんの父親は爆心地から 1.7 キロで被爆。中村さんは自身が甲状腺がん罹患したことから、被爆二世としての自覚を持ち、2012 年に発足された、日本原水

爆被害者団体協議会(日本被団協)の二世委員会为中心的に活動。県被団協の二世の会では、被爆者の高齢化により証言を語れる方が少なくなったことから、紙芝居や本人の声で収録された DVD の作成など被爆体験の継承とともに、被爆二世の健康不安や悩みが多く寄せられることから、被爆二世の援護施策の実施を求める運動を続けているとした。

また、日本被団協は原水爆の禁止と原爆被害者援護法の制定を柱としながら運動を続けてきたが、94 年に成立した被爆者援護法は遺族への特別給付金や被爆者年金などの国家補償を認めないもので、国が補償を行うことは「戦時下の非常事態では国民は犠牲を受任しなければならない」とする受任論を脱し、国民の核戦争を拒否する権利を打ち立てるものだと解説し、核戦争のない世界を実現しようと呼びかけた。



被爆経験とその継承の取り組みについて語り、核のない世界の実現を呼びかけた近藤さん(上)・中村さん(下)

神戸市に抗議文を提出

核戦争を防止する兵庫県医師の会は、神戸市が今年 3 月に突如、非核証明書の提出のない米掃海艇の入港を許可したことへ抗議文を提出し、1975 年 3 月に市議会で採択された非核「神戸方式」を遵守するよう求めた。抗議文は以下の通り。

神戸市長 久元喜造 様

2025 年 4 月 2 日

核戦争を防止する兵庫県医師の会

非核「神戸方式」を無視した

非核証明書のない米艦艇の寄港許可に抗議する

神戸市議会は 1975 年 3 月 18 日、「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」を全会一致で採択し、入港するすべての外国艦艇に非核証明書の提出を求める非核「神戸方式」は 50 年間にわたり実行されてきた。

しかし 2025 年 3 月 21 日、神戸市は突如、非核証明書の提出のない米掃海艇ウォーリアの入港を許可した。市は「外務省を通じて核兵器非搭載を確認した」としているが、50 年続けてきた地方自治体としての行政措置を自ら放棄した神戸市長の責任は重大である。

米国が主張するように掃海艇が核兵器を搭載する機能を有していないならば、非核証明書を提出すればよいのであり、提出がないまま入港させた市長の判断は市民の代表である議会での決議の冒涇である。

戦後、神戸港が米軍に約 30 年占領されるなか、神戸市民は長年のたたかいにより神戸港を市民の手に取り戻し、非核「神戸方式」を作り上げた。平和な港を希求する非核「神戸方式」は、国内外の核廃絶運動を励まし、核兵器禁止条約にもその理念が反映されている。その非核「神戸方式」を形骸化させることは、国是である非核三原則をも脅かし、公然と核兵器が日本に持ち込まれる道を開きかねないものである。

命と健康を守る医師・歯科医師の団体として、非核証明書のない米艦艇の寄港許可に対し強く抗議するとともに、今後も非核「神戸方式」を厳守することを求める。

安全保障のジレンマに陥る

「抑止力」の有効性に疑問

九条の会・兵庫県医師の会は5月24日、協会会議室で講演会『「貧国強兵」化する日本—安全保障のあり方を問う—』を開催。明海大学経済学部准教授の宮崎礼二先生が講師を務め、17人が参加した。

宮崎氏は、政府は2021年度時点でGDPの1%（約5兆円）だった防衛費を27年度には2倍にする方針とし、補正

予算を含めれば25年度に9兆円に達する可能性がある一方、社会保障費は1.5%伸びているものの物価上昇を考慮すると実質マイナスで、今の日本政府は、軍事力の増強を最優先し、国民生活を後回しにするという



日本は「貧国強兵」化していると批判した宮崎氏

「貧国強兵」を進めていると批判。また、その背景には軍産複合体の利権があると指摘した。

戦争放棄を掲げる憲法9条は政府・与党にとって「邪魔な存在」であり、正面からの改憲ではなく、自衛隊の海外派遣、特定秘密保護法、武器輸出緩和などを進めていくことで、9条の空文化を進めているとした。

現在、国会で審議されている学術会議法人化法案もその一つであり、戦争に協力した反省から軍事研究を拒否する学術会議の姿勢を転換させようとするものと批判した。

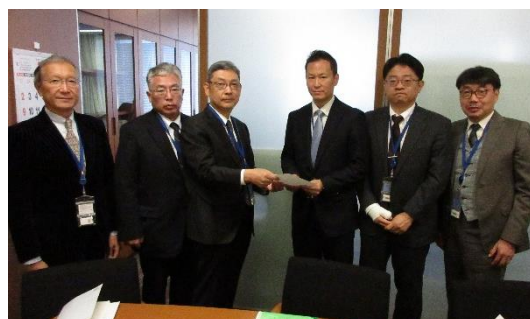
政府は軍拡を「抑止力」のためとしているが、日本が軍事力を増やせば、周辺国も軍拡を進め、日本がさらに軍拡を進めるという軍拡の悪循環に陥り、緊張とリスクが高まり、安全保障のジレンマに陥るとし、安全保障には、軍事力だけでなく、経済、外交、文化、人的交流など、多様な手段が必要と、氏は強調した。

保険医協会国際部 外務省に要請

パレスチナへの医療支援 継続を

兵庫県保険医協会は、3月13日に外務省に要請行動を実施。役員らが参加し、ガザをはじめとしたパレスチナの医療施設に対する武力行使を行わせないこと、UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）の活動を引き続き支援することなどを求めた。

外務省は、イスラエルによる入植活動は明らかな国際法違反で凍結を求めていること、医療施設への攻撃も国際法に基づいた対応が必要だとした。UNRWAは難民支援に不可欠であり、日本政府としては今後も予算をつけて支援を続けるとした。また、ガザのけが人や病人が日本で治療



外務省担当者（右2人目・3人目）に要請した

できるよう石破首相は検討しているとし、「昨年の国連安全保障理事会でのガザ即時停戦決議にアメリカは拒否権を発動したため、日本政府から意見した。言うべきことは言う立場だ」とした。

カザフスタンの「ヒバクシャ」取材を報告



出しない米艦船の入港を認めたことに抗議するとともに、国内外から高く称賛され、神戸市民の宝である「非核『神戸方式』」の厳守を求める「特別決議」を採択した。

小山さんがカザフスタンの「ヒバクシャ」取材について報告した

非核の政府を求める兵庫の会は3月30日、協会会議室で第39回総会を開催し、会員・市民ら20人が参加した。3月24日に非核「神戸方式」のもと、50年間入港できなかった米艦艇が神戸港に入港しており、その直後の総会となった。これを受け総会では、神戸市がこれまで核兵器国・非核兵器国問わず提出を求めてきた「非核証明書」を提

記念講演では元毎日新聞記者で現在フリージャーナリストの小山美砂さんが講演。旧ソ連の核実験による被害を受け、現在核兵器禁止条約で重要な役割を果たしているカザフスタンを実際に取材した経験を話された。現在も続いている被害と現地の「ヒバクシャ」のリアルな声、国際的には役割を果たしているとされる政府にも国内のヒバクシャからは厳しい目があることなどが紹介され、参加者とも活発に意見交換がなされた。

核戦争防止国際医師会議世界大会（IPPNW）in 長崎

日 時 10月2日（木）～4日（土）
会 場 出島メッセ（長崎県長崎市尾上町4-1、JR長崎駅すぐ）
主 催 核戦争防止国際医師会議 日本支部
共 催 広島県医師会、長崎県医師会
プログラム（詳細未定）



「原爆の人体への影響に関する80年の総括」「被爆者・核実験被爆者の証言」ほか、「気候危機と核兵器」「AIと核兵器」などのパネルディスカッション、「Don't Bank On the Bombキャンペーン」のワークショップなどを予定。

ホームページ <https://www.congre.co.jp/ippnw2025/jp/index.html>（または上記QRコード）

参加希望の方は、核戦争を防止する兵庫県医師の会事務局 arimoto@doc-net.or.jp まで

Don' t Bank On the Bomb キャンペーン

核兵器製造企業への投融資禁止を求め太陽生命と懇談

核兵器への投資禁止は当然



太陽生命に対し核廃絶のための協力を呼びかけた

全国保険医団体連合会（保団連）と近畿反核医師懇談会の関係役員・事務局は4月21日、

“Don' t Bank On the Bomb（核兵器にお金を貸すな、略称DBOB）” キャンペーンの一環として太陽生命と懇談した。

太陽生命は保団連共済の保険医年金を共同で受託している生命保険会社であり、2024年度の投資方針に「核兵器製造企業への投融資禁止」を明記したことから、その経緯や運用状況について意見交換するために懇談を申し入れた。

懇談では、住江憲勇・保団連名誉会長があいさつし、「被爆の被害は根本的な治療がなく、医師・歯科医師は核兵器廃絶に切なる思いを持っている。企業倫理がいつそう求められる時代であり、それに応えていただくことが貴社の社会的価値を高めることになる」と期待を寄せた。

近畿反核医師懇談会からは DBOB 運動の概要に

ついて報告。2019年の開始以来、核兵器製造企業への投融資を禁止した国内金融機関が1社から14社に増加している現状を説明し、運動への協力を求めた。

太陽生命からは、清友美貴・取締役常務執行役員をはじめ、運用企画部の佐藤義剛部長、立脇裕子課長が出席。同社は「従来から非人道兵器に対して投融資を禁止しており、昨年から核兵器製造企業も対象に追加した。ESG（環境・社会・企業統治）のチェックシートに基づき投資先を選定している」と説明。核兵器製造企業の定義については、DBOB運動を推進するオランダのNGO「PAX」が特定した24社を対象にしていると述べた。

投資方針の見直しの経緯として、「他の金融機関の動きも参考に、T&Dグループのなかで見直した方が良いとの意見を受けた対応。社内では『時代の流れとして当然』と受け止められ、異論は出なかった」と説明があった。

中村新太郎・大阪府歯科保険医協会理事は、日本生命が先行して投資禁止を打ち出し、NHK番組の取材を受けた事例に触れ、企業イメージの向上につながっていることを紹介。松井和夫・和歌山県保険医協会理事は、「日本の金融機関では外部委託資産を通じて結果的に核兵器製造企業に投融資している例があり、PAXレポートで最高評価の『名誉の殿堂』を獲得した国内企業はない。太陽生命がその第一号になることを期待している」と激励の言葉を述べた。

PAXの最新レポートは下記アドレスまたは右のQRコードから
ご覧いただけます。

<http://www.hhk.jp/dbob/reports/594/>

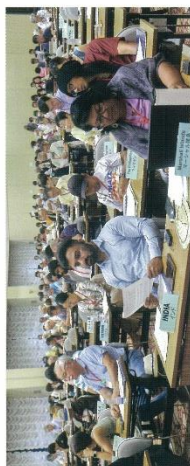


被爆者の訴えを心に刻むこの大会へ 青年・次世代のみなさんの積極的な参加を

8/3
3・4
(日) (月)

国際会議

会場：広島 JAビル 10階大会議室



8/3 (日) 10:00～18:00

第1セッション

被爆者の声を世界に

第2セッション

市民社会の連帯と運動交流

第3セッション

核兵器のない平和で公正な世界を

8/4 (月) 10:00～12:00

第3セッションの続き

閉会総会「国際会議宣言」採択

ヒロシマ・ナガサキの被爆者、核実験被害者の証言、専門家の研究成果などから核兵器の非人道性についての理解と認識を深める第1セッション、核兵器廃絶を実現する展望を明らかにし、「核抑止論」の誤りを徹底的に追求する第2セッション。そして第3セッションでは2026年のNPT再検討会議などの国際会議にむけて、国連、諸国政府、市民社会の共同をどう発展させるか、異なる人類的な課題とそれにとりくむ諸運動と連帯し、幅広い視点から議論を重ねます。

被爆80年特別プログラム

核兵器のない世界の実現、
被爆者の体験とメッセージの継承と普及

8/4
14:00 月曜日
～16:30

被爆体験の継承と未来
一被爆80年 広島のつどい
オンライン配信あり
広島県立総合体育館グリーンアリーナ

8/7
15:00 木曜日
～17:30

被爆体験の継承と未来
一被爆80年 長崎のつどい
オンライン配信あり
長崎市民会館・体育館

核兵器が使われれば何が起きるのか、あの日の記憶を鮮明に覚えている世代の生存被爆者の生の声を目にしてお聞きください。そして、被爆地で被爆者の体験とメッセージを継承している高校生、青年、次世代のみなさんと全国からの参加者のみなさんといっしょに継承していきます。当時の写真、映像や文化も交えながらお届けします。



原水爆禁止世界大会
実行委員会

〒113-8464 東京都文京区湯島 2-4-4 平和と労働センター6階
Tel: 03-5842-6035 / Fax: 03-5842-6033
URL: <https://www.antiatom.org/> E-mail: antiatom55@hotmail.com

被爆80年

原水爆禁止 2025年世界大会

広島ー長崎

テーマ 被爆者とともに、
核兵器のない平和で公正な世界を
ー 人類と地球の未来のために

8月3日(日)～8月9日(土)

被爆80年 被爆者とともに、 核兵器のない平和な世界への扉をひらこう

被爆80年の本大会は、あの原爆投下によるこの世の地獄を経験し、「もう二度と同じ体験を世界の誰にもさせてはならない」との被爆者の切実な願いと、「核兵器と人類は共存できない」「核兵器で平和と安全は守れない」との訴えを、世界に発信します。

いま、核兵器の非人道性に焦点を当て、国際法として「核使用を許さない」確かな力を発揮しているのが、核兵器禁止条約(TPNW)です。

世界大会は、こうした核兵器禁止条約の先頭に立つ国々の政府代表、国際機関代表、核保有国や「核の傘」の下にある国で運動にとりくむ市民代表や非核の立場に立つ議員など、広範な人々が参加し、核兵器廃絶のための共同を発展させる場となります。

とりわけ、来年の第11回核不拡散条約(NPT)再検討会議を前に、核兵器の廃絶と平和を求める全ての国の政府と市民社会が協力し、核保有国に対して核兵器廃絶の実行を求める世論と運動をどう創り出していくのか、その努力と共同行動について協議します。

海外代表の参加も続々決定

フランスから100人を超える代表が訪れるなど、被爆80年の原水爆禁止世界大会は、海外からも熱い注目を集めています。各国の政府代表や国連からの参加も招請中。アジア、ヨーロッパ、アメリカなど核兵器禁止条約を推進する団体など有力な運動の代表が参加します。



イ・ジュンギ
【韓国】



ジョセフ・ガーソン
【アメリカ】



アン・ライト
【アメリカ】



ジェームズ・ユビ
【イギリス】



8/5 (火) フォーラム、分科会

14:00～16:30 会場:広島市内

広島

フォーラムI: 政府代表と市民社会の対話 ※開催時間調整中
 フォーラムII: 国会議員と市民の対話 ※開催時間調整中
 分科会1: 核兵器禁止条約に参加する日本を(非核日本キャンペーン)
 分科会2: 非核平和の日本とアジア
 分科会3: 被爆・核実験被害者の実相普及、被爆者援護・連帯、核実験被害者の支援
 分科会4: ストックホルム戦争準備・大軍拡、守るう平和とくらし
 分科会5: 青年のひろば
 分科会6: 反核平和の文化
 分科会7: 気候危機、エネルギーと原発
 分科会8: 親と子の学びのひろば

動く分科会

- 広島少年少女のつどい (8:30～15:10)
- 碎めぐり (13:00～16:30)
- 原爆遺跡めぐり (13:00～16:30) (旧陸軍被爆者施設)
- 呉基地調査行動 (13:00～16:30)

関連行事

- 第52回全国高校生平和集会(広島) (13:30～17:00)

保育あります

8/8 (金) フォーラム、分科会

9:30～15:00 会場:長崎市内

長崎

フォーラムI: 政府代表と市民社会の対話 ※14:00～16:30
 フォーラムII: 国会議員と市民の対話 ※開催時間調整中
 分科会1: 核兵器禁止条約に参加する日本を(非核日本キャンペーン)
 分科会2: 非核平和の日本とアジア
 分科会3: 被爆・核実験被害者の実相普及、被爆者援護・連帯、核実験被害者の支援
 分科会4: ストックホルム戦争準備・大軍拡、守るう平和とくらし
 分科会5: 青年のひろば
 分科会6: 反核平和の文化
 分科会7: 気候危機、エネルギーと原発
 分科会8: 親と子の学びのひろば

動く分科会

- 佐世保基地調査行動 (8:30～15:00)
- 被爆遺跡めぐり (15:00～18:30)

関連行事

- 第52回全国高校生平和集会(長崎) (13:30～17:00)
- 少年少女のつどい・長崎 (16:00～18:30)

保育あります

8/9 (土) ナガサキデー集会

10:30～13:00 [オンライン配信あり]

会場:長崎市民会館・体育館

ナガサキデー集会

【主なプログラム】 開会宣言/主催者報告/長崎市長あいさつ/被爆者あいさつ/政府代表あいさつ/国内来賓あいさつ&メッセージ/海外代表からの発言/日本の決意&草の根運動交流/文書提案・採択

2025年世界大会のフィナーレをかざる集会です。海外の発言や被爆80年の決意を新たにし、核兵器廃絶へ長崎から世界へメッセージを送ります。

保育あります

8/6 (水) ヒロシマデー集会

10:30～13:00

会場:広島県立総合体育館・グリーンアリーナ

ヒロシマデー集会

【主なプログラム】 開会宣言/主催者報告/広島市長あいさつ/被爆者あいさつ/政府代表あいさつ/国内来賓あいさつ&メッセージ/海外代表からの発言/日本の決意&草の根運動交流/文書提案・採択

関連行事

- ヒロシマデー灯ろうながし

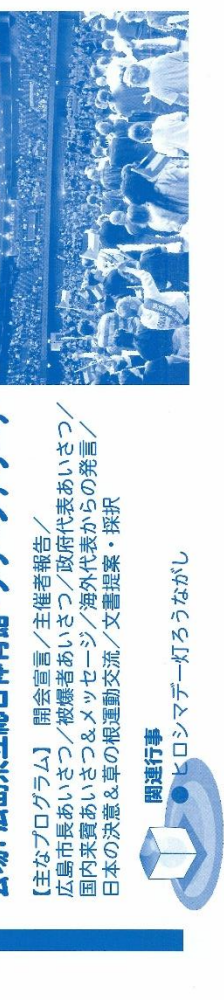
保育あります

「広島・長崎 被爆80年平和の波」

世界大会の開催期間 (8月3日から9日)、核兵器の使用・威嚇を許さず、核兵器全面禁止・廃絶を共通の目標として、自国の政府に核兵器禁止条約への参加を求める署名のとりくみを共通の行動形態とする、草の根の国際共同行動、

「広島・長崎被爆80年世界平和の波」をよびかけます。

平和の波
 PEACE WAVE
 VAGUE DE PAIX
 OLA DE PAZ
 موجة السلام



第35回

反核医師のつどい in 東京

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）では、毎年、反核医師のつどいを開催してきました。被爆80年の今年は、35回目のつどいを東京で開催することとなりました。ぜひ、多くのみなさんのご参加をお待ちしております。

2025年 **8.30** 土・**8.31** 日

会場：**平和と労働センター・全労連会館** 2階ホール

(〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4) 東京・御茶ノ水駅 徒歩5分

オンライン併用

day 1

8.30 土

13:30～ 開会全体会

13:40～ シンポジウム

テーマ：「被爆80年、被爆者運動・被爆医療の歴史を継承する」

パネリスト

田中 熙巳さん（日本被団協代表委員）

齋藤 紀さん（ふれあいクリニックさくらみず所長）

河野 絵理子さん（長野中央病院・青年医師）

松久 凌大さん（秋田大学医学部5年生）

コーディネーター

向山 新さん（反核医師の会代表世話人）

16:50～ 学習講演

テーマ：「『原爆裁判』を現代に活かす」

講師：大久保 賢一さん（日本反核法律家協会会長）

19:00～ 懇親会（同会場）

day 2

8.31 日

9:30～ 記念講演

テーマ：「ヒロシマからフクシマ、そして未来へ～肥田舜太郎先生の教えを胸に」

講師：斉藤 とも子さん（俳優）

11:10～ 特別企画

「若手医師・医学生による、TPNW締約国会議に参加した同世代との対談企画」

12:40～ 閉会全体会

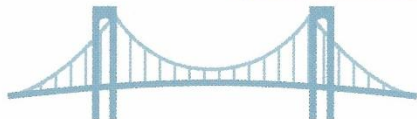
13:10 閉会予定

医師・歯科医師 **5,000円**
医療関係者 **2,000円**
参加 医療系学生 **1,000円**

1日参加・オンライン参加でも参加費は変わりません。

一般は現地参加のみ **1,000円**
懇親会 **7,500円**（医学生は無料）

一般参加歓迎（現地会場のみ）



田中 熙巳さん

日本被団協代表委員
日本被団協ノーベル平和賞受賞。
2024年12月10日 ノルウェー・オスロで開かれた授賞式で受賞演説を行う。



齋藤 紀さん 医師

1975年福島医大卒、1977年広島大学
原爆放射能医学研究所、2009年より
医療生協わたり病院。現在、ふれあい
クリニックさくらみず所長。IPPNW
（核戦争防止国際医師会議）日本支部
会員。被爆者の原爆症認定に尽力。



大久保 賢一さん 弁護士

日本弁護士連合会核兵器廃絶部会
会長
日本反核法律家協会会長
核兵器廃絶日本NGO連絡会共同代表
「今、どうして見伝えておきたいこと」
肥田舜太郎医師との共著など著書多数



斉藤 とも子さん 俳優

1976年少年ドラマ「明日への追跡」で
デビュー。学園ドラマや「男たちの旅路・
華輪の歩」など出演。
1999年、井上ひさし作「父と善せは」を
縁に被爆者と出会い、2005年「さくこ
雲の下から、明日へ」を出版。舞台「痕跡
（劇団南北戯曲賞）」など多数。

主催：第35回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい実行委員会／核戦争に反対する医師の会

お問い合わせは 078-393-1807（事務局）まで！

被爆80年 反核平和運動・被爆者支援・被爆医療の歴史を学び継承しよう！

反核医師のつどい